

6 まとめ

東京都シルバーパス関連調査報告書（概要版）「2 回答者の基本属性」「3 回答者の行動の傾向」「4 回答者の意識の傾向」の各節冒頭の要約を再掲する。

（1）回答者の基本属性

ア 年齢

『あり方調査（20歳～69歳）』では「40歳代」、「50歳代」、「60歳代」、『あり方調査（70歳以上）』では「70歳代」、『利用者実態調査』では「80歳代」が多く回答している。

「住民基本台帳による東京都の世帯と人口の概要（平成31年1月1日時点）」と比べて、『あり方調査（20歳～69歳）』は「50歳代」、「60歳代」、『あり方調査（70歳以上）』は「70歳代」、『利用者実態調査』は「80歳代」が多く回答している。

イ 性別

『あり方調査（70歳以上）』では、「女性」56.0%、「男性」42.7%であり、『利用者実態調査』では、「女性」72.7%、「男性」26.1%となっている。

「住民基本台帳による東京都の世帯と人口の概要（平成31年1月1日時点）」と比べて、『利用者実態調査』は、「男性」の占める割合が▲15.4%ポイントであり、「女性」の占める割合が+14.2%ポイントとなっている。

ウ 居住地区

いずれの調査においても、「特別区」が6割超、「市部」が3割超、「町村部」が1割未満となっている。

「住民基本台帳による東京都の世帯と人口の概要（平成31年1月1日時点）」と比べて、『あり方調査（20歳～69歳）』、『あり方調査（70歳以上）』の構成比は、「市町村」の割合が高く、『利用者実態調査』の構成比は、「特別区」の割合が高くなっている。

エ 同居者

『あり方調査（20歳～69歳）』、『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』のいずれの調査においても、全体では同居者が「配偶者」の割合が高くなっている。

『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』では、年齢が上がるにつれて、「配偶者」の割合が低くなり、「いない（ひとり暮らし）」の割合が高くなっている。

オ 自動車運転免許の有無（バイク、原付を含む）

『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』ともに、「免許なし」の割合が最も高く、年齢別にみると、年齢が上がるにつれて割合が高くなる傾向となっている。また、「20,510円」パス所持者は免許を持っている割合が「1,000円」パス所持者と比較して高くなっている。

『あり方調査（70歳以上）』では、シルバーパス未所持者は「免許有/運転する」が41.0%と所持者の15.1%と比較して高くなっている。

カ 自由に使える車の有無

設問「自動車運転免許の有無（バイク、原付を含む）」において、「免許有/運転する」と回答した人のうち「自由に使える車がある」人の割合は、『あり方調査（70歳以上）』では83.2%、『利用者実態調査』では71.0%となっている。

『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』のいずれの調査においても、「自由に使える車がある」は、「特別区」より「市町村」が高くなっている。

『あり方調査（70歳以上）』では、「自由に使える車がある」は、シルバーパス未所持者が87.3%と所持者の74.1%と比較して高くなっている。

キ 仕事の有無

『あり方調査（70歳以上）』では、「収入のある仕事はしていない」が67.7%、「収入のある仕事をしている」が24.8%となっている。『利用者実態調査』では「収入のある仕事はしていない」が83.8%、「収入のある仕事をしている」が9.7%となっている。

東京都福祉保健基礎調査「平成27年度『高齢者の生活実態』」と比べて、「仕事をしている」人は、『あり方調査（70歳以上）』では、+1.7%ポイントであり、『利用者実態調査』では、▲13.4%ポイントとなっている。

ク 収入のある仕事の頻度（定期・不定期）

設問「仕事の有無」において、「収入のある仕事をしている」と回答した人の仕事の頻度は、『あり方調査（70歳以上）』では「定期」が65.0%と最も高く、次いで「不定期」が22.9%となっている。

『利用者実態調査』では、「無回答」が57.6%と最も高く、次いで「不定期」が22.3%、「定期」が20.2%となっている。

ケ 収入のある仕事の勤務日数／週

設問「収入のある仕事の頻度（定期・不定期）」における「定期」のうち、週「5日」以上仕事をしている割合は、『あり方調査（70歳以上）』では50.2%（5日34.6%、6日12.3%、7日3.3%）であり、『利用者実態調査』では、32.2%（5日25.8%、6日4.5%、7日1.9%）となっている。

コ 仕事の勤務形態

設問「仕事の有無」において、「収入のある仕事をしている」と回答した人の仕事の勤務形態は、『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』ともに、「派遣・契約・嘱託・パート・アルバイトなど」の割合が高く、次いで「自営業・個人事業主・自由業（家族従業者を含む）」が高くなっている。

サ 収入源

『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』ともに、「年金収入」が約9割となっている。

シ 個人の税込の年収（年金を含む）の合計

「100万円未満」、「100万円～250万円未満」の合計が、『あり方調査（70歳以上）』では63.8%、『利用者実態調査』では78.2%であり、「400万円未満」まで範囲を広げるとそれぞれ78.6%、85.9%となっている。

東京都福祉保健基礎調査「平成27年度『高齢者の生活実態』」と比べて、「100万円未満」は『あり方調査（70歳以上）』では+2.6%ポイント、『利用者実態調査』では+12.6%ポイントとなっている。

ス 配偶者の収入源

『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』ともに、「年金収入」が約9割となっている。

セ 配偶者の税込の年収（年金を含む）の合計

『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』ともに、配偶者の年収は「100万円未満」が最も高く、「100万円未満」と「100万円～250万円未満」の合計は、『あり方調査（70歳以上）』では70.0%、『利用者実態調査』では67.9%となっている。

両調査とも、「男性」の配偶者は「100万円未満」が6割以上となっている。

ソ シルバーパスの所持状況

「所持」は、『あり方調査（70歳以上）』では、50.7%と半数を占め、「女性」は67.4%、「男性」は28.8%が「所持」となっている。また、「特別区」は55.3%、「市町村」は43.6%が「所持」となっている。

個人年収が上がるにつれて「所持」の割合が低くなる傾向であり、「所持」は、「100万円未満」は70.6%だが、「400万円以上」になると15.1%となっている。

タ シルバーパスを所持していない理由

「シルバーパスが利用できる交通機関をあまり利用しないため」が43.8%と最も高く、次いで「自分・家族の車やタクシーを利用しているため」が31.9%となっている。

チ 所持しているシルバーパスの種別

『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』ともに、約9割が「1,000円」パスを所持している。

ツ シルバーパスの認知度

『あり方調査（20歳～69歳）』では、「内容はよくわからないが聞いたことがあった」がいずれの年齢層でも最も高くなっている。「20歳代」から「50歳代」までは、年齢が上がるにつれて「制度の内容を含めて知っていた」が高くなっている。

「知らなかった」が「20歳代」30.9%、「30歳代」20.7%で他の年齢層と比べて高くなっている。

テ 身近なシルバーパス利用者の有無

『あり方調査（20歳～69歳）』では、「利用している人はいない」の割合がいずれの年齢層でも最も高くなっている。

年齢別にみると、「家族が利用している」が「40歳代」、「50歳代」で約3割であり、他の年齢層と比べて高くなっている。また、「65歳～69歳」は「知人が利用している」が41.7%と他の年齢層と比べて高くなっている。

（2） 回答者の行動の傾向

ア 普段の外出回数

『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』ともに、「普段の外出回数」は年齢が上がるにつれて少なくなる傾向となっている。また、「20,510円」パス所持者、「免許有/車を持っている」人や、個人年収が高い人ほど「普段の外出回数」は多くなっている。

シルバーパス所持者と未所持者では、大きな差はない。

イ ほとんど外出しない理由

設問「普段の外出回数」において、「ほとんど外出しない」と回答した人の「ほとんど外出しない理由」は、『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』ともに、「健康上の理由で外出できないため」が最も高くなっている。

また、「健康上の理由で外出できないため」は、『あり方調査（70歳以上）』では49.1%、『利用者実態調査』では53.0%となっている。

ウ バスや電車を使ったひとりでの外出状況

『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』ともに、「ひとりで外出できる」が9割以上となっている。一方、「80歳～84歳」以上になると、「付き添いがあれば外出できる」や「付き添いがあっても外出できない」の割合が増加している。また、その傾向はシルバーパス未所持者で強くなっている。

エ 1週間のバスの利用回数

『あり方調査（70歳以上）』では、利用回数「0回」が45.4%となっており、1週間の平均利用回数は3.4回となっている。また、「70歳～74歳」、「市町村」、「個人年収が高い人」の利用回数が少なくなっている。さらに、シルバーパス未所持者は利用回数「0回」が75.5%を占めている。なお、シルバーパスの種別では、「1,000円」パス所持者と比較して、「20,510円」パス所持者の平均利用回数が多くなっている。

『利用者実態調査』では、利用回数「10回以上」が21.7%となっており、平均利用回数は5.9回となっている。また、「70歳代」、「個人年収が高い人」の平均利用回数が多くなっている。一方、居住地区では、差はほとんどみられない。さらに、シルバーパスの種別では、「1,000円」パス所持者と比べて、「20,510円」パス所持者の平均利用回数が多くなっている。

オ 1週間のバス以外（都営地下鉄、都電、日暮里・舎人ライナー）の利用回数

『あり方調査（70歳以上）』では、利用回数「0回」が80.0%となっており、1週間の平均利用回数は0.8回となっている。また、居住地区別では「市町村」の平均利用回数が少なくなっている。さらに、シルバーパス未所持者は「0回」が89.2%を占めている。なお、シルバーパスの種別では、「1,000円」パス所持者と比較して、「20,510円」パス所持者の方は利用回数が多くなっている。

『利用者実態調査』では、利用回数「0回」が71.0%となっており、平均回数は1.2回となっている。また、年齢、個人年収の属性別にみると「70歳代」、個人年収が高い人の利用回数が多くなっている。さらに、シルバーパスの種別では、「1,000円」パス所持者と比較して、「20,510円」パス所持者は利用回数が多くなっている。

カ 普段の1週間との乗車回数比較

設問「1週間のバスの利用回数」、「1週間のバス以外（都営地下鉄、都電、日暮里・舎人ライナー）の利用回数」と「普段の1週間の乗車回数の比較」は、『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』ともに、「変わらない」が約5割で最も高くなっている。

キ シルバーパスを利用した外出の主な目的

『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』ともに、「買い物」が約6割と最も高く、次いで「通院」約5割、「趣味の活動」約4割となっている。

「20,510円」パス所持者と「1,000円」パス所持者を比較すると、「20,510円」パス所持者は、「趣味の活動」、「通勤」の割合が高く、「1,000円」パス所持者は、「買い物」、「通院」が高くなっている。

ク 1年から3年前と比べたシルバーパスの利用回数の変化

『利用者実態調査』では、「変わらない」が49.1%と最も高くなっている。年齢が上がるにつれて「少し減った」、「とても減った」が高くなり、「増えた」、「まあ増えた」、「変わらない」が低くなる傾向となっている。

また、「1,000円」パス所持者、「20,510円」パス所持者ともに、「変わらない」が最も高くなっている。

ケ シルバーパスを利用する回数が増減した理由

設問「1年から3年前と比べたシルバーパスの利用回数の変化」において、「変わらない」以外を回答した人の「シルバーパスを利用する回数が増減した理由」は、いずれの年齢層においても、「自身の健康状態や健康意識による、外出回数の変化」が最も高くなっている。

(3) 回答者の意識の傾向

ア シルバーパスの役立ち度

『利用者実態調査』では、「役立っている」が91.2%。年齢が上がるにつれて「役立っている」の割合が低くなっている。

「1,000円」パス所持者は「役立っている」が92.3%、「20,510円」パス所持者は88.7%となっている。

イ 住民税非課税者の発行時手数料（1,000円）に対する考え

『あり方調査（20歳～69歳）、（70歳以上）』では、各年齢別にみると、いずれの年齢層においても「1,000円は『安い』と思う」が約4～5割で最も高くなっている。また、20歳～69歳の制度利用前の年齢層では、「1,000円は『安い』と思う」との回答は約5～6割程度となっている。

『利用者実態調査』では、「適切な金額だと思う」が約5割で最も高くなっている。

ウ 住民税課税者の利用者負担金（20,510円）に対する考え

『あり方調査（20歳～69歳）、（70歳以上）』では、「20歳代」から「50歳代」までは、「適切な金額だと思う」が最も高く、「60歳～64歳」以上になると、「20,510円は『高い』と思う」が最も高くなっている。一方、『利用者実態調査』では、「無回答」の割合が最も高く、次いで「適切な金額だと思う」が続くが、「無回答」の33.6%、「わからない」の19.7%を合わせると53.3%になっている。

シルバーパスの種別にみると、「20,510円」パス所持者は「適切な金額だと思う」、「20,510円は『高い』と思う」が高く、「1,000円」パス所持者は「無回答」、「わからない」の割合が高くなっている。

エ シルバーパスの対象年齢に対する考え

『あり方調査（20歳～69歳）、（70歳以上）』では、「適切な年齢設定だと思う」との回答が各年齢層で6～7割を占めている。特に、制度利用直前の「65歳～69歳」で74.3%と高くなっている。

『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』では、年齢が上がるにつれて「適切な年齢設定だと思う」の割合が低くなっている。

オ シルバーパス利用者負担金額の住民税課税状況に応じた設定に対する考え

『あり方調査（20歳～69歳）』では、「30歳代」は「世帯全体の収入に応じて、段階を設定するのがよい」が32.9%で最も高くなっている。それ以外の年齢層では、「収入に応じて、段階を設定するのがよい」が最も高く、「適切な設定だと思う」は2割以下となっている。一方、『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』では「適切な設定だと思う」が最も高くなっている。

『あり方調査（70歳以上）』では、シルバーパスの所持状況別にみると、「所持」は「適切な設定だと思う」が48.6%と最も高く、「未所持」は「収入に応じて、段階を設定するのがよい」が28.6%と最も高くなっている。

『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』では、シルバーパスの種別にみると、「1,000円」パス所持者は「適切な設定だと思う」が約5割で最も高くなっている。一方の「20,510円」パス所持者は、「収入に応じて、段階を設定するのがよい」が3割台で最も高く、「世帯全体の収入に応じて、段階を設定するのがよい」や「一律にするのがよい」が「1,000円」パス所持者と比較して高くなっている。

カ シルバーパス事業費用に対する考え

『あり方調査（20歳～69歳）』では、「20歳代」、「30歳代」は「費用が増加しないよう、制度を見直すのがよい」が3割程度となっている。年齢が上がるにつれて「都の税金による支出を増やすのがよい」の割合が高くなっている。

一方、『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』では、「都の税金による支出を増やすのがよい」、「本人が負担する金額を上げるのがよい」、「費用が増加しないよう、制度を見直すのがよい」がそれぞれ2割程度となっている。

キ 高齢者人口の増加が見込まれている中でのシルバーパス制度に対する考え

『あり方調査（20～69歳）』では、年齢が上がるにつれて「継続するのがよい」の割合が高くなっている。また、『利用者実態調査』では、「継続するのがよい」が71.7%となっている。

『あり方調査（70歳以上）』では、シルバーパスの所持状況別にみると、「未所持」は「継続するのがよい」が38.7%と「所持」の72.3%と比較して低く、一方、「縮小するのがよい」、「拡充するのがよい」は「所持」と比較して高くなっている。

『あり方調査（70歳以上）』、『利用者実態調査』では、シルバーパスの種別にみると、「1,000円」パス所持者、「20,510円」パス所持者ともに「継続するのがよい」が最も高くなっている。また、「20,510円」パス所持者は「拡充するのがよい」が、「1,000円」パス所持者と比較して高くなっている。

ク シルバーパスのこれからのあり方に対する考え

「今のままでよい」が『あり方調査（70歳以上）』では35.3%、『利用者実態調査』では55.2%と最も高くなっている。また、「1,000円」パス所持者は「今のままでよい」が最も高くなっている。

『あり方調査(70歳以上)』では、「市町村」居住者は「鉄道やモノレール等で利用可能とする」の割合が最も高くなっている。『利用者実態調査』では、「今のままでよい」に次いで「鉄道やモノレール等で利用可能とする」が高くなっている。また、シルバーパス未所持者は、「Suica や PASMO のような IC カードにする」が 35.1%と最も高く、次いで「鉄道やモノレール等で利用可能とする」が 30.6%となっている。

『あり方調査(70歳以上)』、『利用者実態調査』では、シルバーパスの種別にみると、「20,510円」パス所持者は、「Suica や PASMO のような IC カードにする」や「鉄道やモノレール等で利用可能とする」が「1,000円」パス所持者と比べて高くなっている。